



■東京医科歯科大学病院で。学生との病棟回診風景

斬新な手法で 医学教育を改革

患者さんとのコミュニケーションに重きを

磯部光章氏は1978年に東京大学医学部医学科を卒業後、循環器外来、エコーやカテーテルなど、オールラウンドに学ぶことができ、基礎研究もできる環境を求め、東京大学医学部第三内科へ進んだ。その後、当時最先端の臨床を行っていた三井記念病院にその身を移し、臨床トレーニングを重ねながら、臨床研究に励む日々を過ごし、1985年に、東京大学医学部第三内科助手に昇任した。

1987年、磯部氏は当時日本人を受け入れていなかった心臓内科教授のエドガー・ヘイバー氏が主催するハー

バード大学マサチューセッツ総合病院心臓内科に留学。5年間の留学中は当時日本では行われていなかった心臓移植の研究に取り組み、この分野での最大の課題であった拒絶反応の診断や防止に関する画期的な研究成果をあげた。『サイエンス誌』に発表した同研究成果が世界中のメディアの注目を集めたことに対しては、「誰も挑戦していなかった心臓移植免疫のテーマと順天堂大学免疫学の奥村先生の協力が成功の源だった」と語った。

価値観や人生観を持つ。その中で自分の受ける医療を選択すべきである。それを援助するのが医師。患者さんの人生にとって、その治療がどういう意味を持つか、家に帰った後にどういう生活をしていくのか、考えて診療すること」と、研究のみならず、臨床においても「患者さんとのコミュニケーションが重要」ということを、若手医師・研修医・医学生らへ教え続けている。そして、著書『話を聞かない医師思いが言えない患者』でも、患者と医師の間に生じる隔たりを分かりやすく啓発すると同時に、日本心不全学会、日本循環器学会心臓移植委員会などにおいて市民公開講座などの啓発活動を積極的に行い、また希少難病である高安静脈炎患者への援助を行うなど、長年に亘り、本務を超えた市民教育や援助活動にも取り組んでいる。

推薦者

- 矢崎 義雄 学校法人 東京医科大学 理事長
- 北川 昌伸 東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科 教授・歯学総合研究科長
- 北村 聖 東京医科歯科大学 医学部 医学部長
- 北村 聖 地域医療振興協会 執行役員シニアアドバイザー
- 木原 康樹 東京大学 名誉教授
- 木原 康樹 国立大学法人 広島大学 副学長
- 五味 ゆみ子 国立大学法人 広島大学大学院 医系科学研究科 循環器内科学 教授
- 吉田 素文 高安静脈炎友の会〜あけぼの会 会長
- 吉田 素文 国際医療福祉大学大学院 医学部 副学部長・医学科長



■無線聴診器を使った患者さんの心音聴診実習



いそべ みつあき
磯部 光章
Mitsuaki Isobe

公益財団法人 日本心臓血管研究振興会附属 榊原記念病院 院長
東京医科歯科大学 名誉教授
日本学術会議 会員
President, Sakakibara Heart Institute
Emeritus Professor, Tokyo Medical and Dental University
Member of The Science Council of Japan

1978年東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学部第三内科などを経て、1987年にハーバード大学マサチューセッツ総合病院心臓内科に留学。心臓移植の際の拒絶反応に関する研究で画期的な成果をあげる。帰国後、信州大学医学部第一内科助教授に就任。工夫を凝らした医学教育を次々と考案。2001年に循環器内科教授として着任した東京医科歯科大学では、これまでにベストプロフェッサー賞を9度受賞。研究のみならず、臨床においても「患者さんとのコミュニケーションが重要」であることを訴えると同時に、市民公開講座を行うなど、本務を超えた市民教育などにも動んでいる。

磯部氏は「医師自身の文化や人生観、医学知識だけで、患者さんに提供する情報や診療の内容を決めてはいけない。患者さんは個別の人生を歩み、それぞれに異なる価値と信頼を獲得した。」

1992年、帰国した磯部氏は、信州大学医学部第一内科助教授に就任。研究にとどまらず講義も行うようになると、「やるなら楽しくやったほうがいい」と、工夫を凝らした医学教育を次々と考案。コミュニケーションの基本である、対話による情報伝達がいかに難しいかを教えるお絵かき実習や、学生が論理的な思考過程を学習することを目的とした問題解決型症例セミナー、全国に先駆けて模擬患者さんを使った医療面接、医学生に向けたOSCE(客観的能力試験)などを実施し、筆記試験だけでは分からない技術・態度を評価する評価法を確立した。また、2001年に循環器内科教授として着任した東京医科歯科大学では、全国医学部共用試験の制度立ち上げに尽力。特に心臓の診察法教育の標準化やコミュニケーション能力の評価法の開発普及を行った。同大学では、毎年卒業生が自主的に投票をして決定するベストティーチャー賞をはじめ、ベストプロフェッサー賞を9度受賞するなど、学生からの高い評価と信頼を獲得した。